

清流だより

H30年 9月26日(水)
北西中学校だより



学校教育目標
「心豊かで かしこく
たくましい生徒の育成」

はじめに ◇平成30年度全国学力・学習状況の結果報告！◇

4月17日(火)に実施された全国学力・学習状況調査に、本校の3年生101名が参加しました。調査の内容は、①教科に関する調査(国語・数学・理科)と、②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれ、各教科ともA:主として「知識」に関する問題と、B:主として「活用」に関する問題に分かれています。本年度は4年ごとに実施される理科の調査もありました。この度、本校の分析結果がまとまりましたので、その概要をお知らせし、本校のホームページにも掲載いたします。調査に参加しました3年生には、個別面談等を利用して個人票をもとに、具体的な課題等を説明し、指導します。また、課題点につきましては、職員間で共通理解を図り、全校体制でよりよい授業や指導につなげていきます。

1 本校の状況 (全国、全県との比較)

本校の結果について、国語、数学、理科の結果は次のとおりです。
国語A:「知識」に関する問題は、全国、県平均を上回る結果でした。
国語B:「活用」に関する問題は、全国、県平均を大きく上回る結果でした。
数学A:「知識」に関する問題は、全国、県平均を上回る結果でした。
数学B:「活用」に関する問題は、全国、県平均を上回る結果でした。
理科: 全国、県平均を上回る結果でした。

3年生が2年生の時に実施しました県の学力把握調査での国語、数学の結果と比較すると、今回の調査での成果がより大きくなっています。

2 教科ごとの具体的な状況

国語

◎特に良好だった点

国語A「主として知識」

- ・話の論理的な構成や展開などに注意して聞くことができる。
- ・話し合いの話題や方向を捉えることができる。
- ・話し合いの話題や方向を捉えて、的確に話すことができる。
- ・段落相互の関係に注意し、読みやすく分かりやすい文章にすることができる。
- ・書こうとする事柄のまとめや順序を考えて文章を構成することができる。
- ・古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉えることができる。
- ・文脈に即して漢字を正しく書くことができる。
- ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができる。

国語B「活用」

- ・質問の意図を捉えることができる。
- ・全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すことができる。
- ・目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことができる。
- ・相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書くことができる。
- ・目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことができる。
- ・文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉えることができる。
- ・文章の構成や展開について自分の考えを持つことができる。



○課題とされる点

国語A「主として知識」

- ・文脈中における語句の意味を理解できる。
- ・場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することができる。
- ・伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書くことができる。

国語B「活用」

- ・登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に努めることができる。

○今後の対応

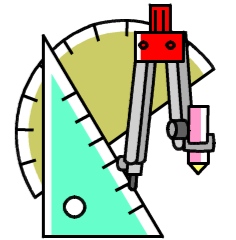
・「文脈に即して漢字を正しく書くことができる」「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができる」については、昨年実施された県の学力把握調査に比べ、授業の中や家庭学習の中で取り組んできた結果、大きく改善しています。引き続き指導し、語彙の習得と語感の育成に努めていきたいと考えています。また「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」「登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に努める」については、生徒自身の体験や読書経験を生かしながら理解につなげていく指導を行っていきます。さらに、「伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書く」については、書いた文章を読み返したり、語句や文の構成などに注意したりすることを授業の中で意識して計画的に取り組んでいきます。

数学

◎特に良好だった点

「数学A:主として知識」

- ・簡単な比例式を解くことができる。
- ・見取図、投影図から空間図形を読み取ることができる。
- ・表などを利用して、確率を求めることができる。
- ・反比例について、グラフと表を関連付けて理解している。
- ・着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目し、連立2元1次方程式をつくることができる。



「数学B:主として活用」

- ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。
- ・グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができる。
- ・与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる。

○課題とされる点

「数学A:主として知識」

- ・指数を含む正の数と負の数の計算ができる。
- ・ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されることを理解している。
- ・1次関数の意味を理解している。

「数学B:主として活用」

- ・計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
- ・与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる。

○今後の対応

正の数と負の数の計算は、小学校の四則計算(特に分数や小数の計算)を含んだ基礎的・基本的な計算の上に成り立っています。これを習得するためには、計算問題練習を継続的に取り組む必要があります。各学年において計算が、技能として定着することを目指していきたいと考えています。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を

数学的に説明することが、毎年課題としてあげられています。与えられた情報から必要なものを選択して、数学的言語を使って説明することは難しいですが、授業の中に言語活動を意図的に取り入れて、文章を書く機会を増やしていくよう努めたいと考えています。また、1つの問題に対する様々な見方や考え方を取り上げ、自分の考えと他人の考えを比較したりまとめたりしながら、多面的にとらえる力が身につくような授業を展開していきます。さらに、学校でも家庭でも学習内容の振り返りが習慣化できるようにしていきたいと考えています。



理科

◎特に良好だった点

- ・神経系の働きについての知識を身につけている。
- ・太平洋高気圧の特徴についての知識を身につけている。
- ・記述式、短答式の問題において無回答が少ない。
- ・植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を身につけている。
- ・緊急地震速報を受け取ってからS波による揺れが始まるまでの時間が最も長い測定地点を指摘できる。
- ・反応の時間を測定する装置や操作を刺激と反応に対応させた実験を計画することができる。
- ・「アサリが出した砂の質量は、明るさに関係していない」という考察した理由を指摘できる。
- ・炎の色と金網につくススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる。
- ・アルミニウムは水の温度変化に関係していることについての新たな問題を見いだすことができる。

○課題とされる点

- ・電流計は回路に直列に接続するという技能を身につけている。
- ・電流計の電気用図記号についての知識を身につけている。
- ・オームの法則を使って抵抗の値を求めることができる。
- ・濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる。
- ・無セキツイ動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用できる。
- ・アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身につけている。
- ・台風の進路のシミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘できる。

○今後の対応

科学的な思考・表現についてはおおむね良好でした。1年生の時から「実験結果から考察し、自分の考えをまとめること」を意識して取り組んでおり、今後も継続していきたいと考えています。「観察・実験の技能」が課題でしたが、特に物理的領域と化学的領域で扱う計算問題については、今回の「電気」「質量パーセント濃度」に限らず、授業で振り返る学習を計画的に進めていき、小数などの基本的な計算を苦手とする生徒については、数学科とも連携して個別に指導をしていきたいと考えています。

3 生徒質問紙調査から見る本校生徒の特徴

生活習慣・自分自身について

- ・同じくらいの時刻に寝起きをし、朝食を毎日食べている生徒の割合が、県平均や全国平均より高い。また、家の人と学校での出来事について話す生徒の割合も県平均や全国平均よりも高くなっている。
- ・新聞を読んでいる割合は19.6%で県平均や全国平均よりも高い。また、テレビやインターネットでニュースを見ると答えた生徒の割合は91.8%で、こちらも山梨

県平均や全国平均よりも高くなっている。

- ・自分にはよいところがあると感じ、将来の夢や目標を持っている生徒の割合が高い。
- ・平日の放課後や週末に、家庭でテレビやビデオ、DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている生徒の割合が最も高く、その割合は県平均や全国平均よりも高くなっている。
- ・学校の規則を守っていると感じている生徒の割合が、県平均や全国平均よりも低い。



家庭学習について

- ・自分で計画を立てて勉強をしていると感じている生徒や、学校の授業の予習・復習をしていると感じている生徒の割合は、県平均や全国平均よりも高くなっている。
- ・平日の家庭での1日あたりの勉強時間は、2時間以上の割合が県平均や全国平均よりも低く、1時間以上2時間未満の生徒の割合が高くなっている。
- ・平日に家庭で読書をしている時間は、1日あたり10分以上30分未満が最も高く、全くしないと答えた生徒の割合が山梨県平均や全国平均よりも高くなっている。

授業について

- ・数学ができるようになりたい生徒や、数学の授業で問題を解き方が分からないときに諦めずに考える生徒、数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題を最後まで解答を書こうと努力した生徒、それぞれの割合が県平均や全国平均よりも高い。
- ・理科では、観察や実験を行う時に計画を立てたり、考察をしたり、振り返りをしたりすることを行っていると感じた生徒の割合が県平均や全国平均よりも高い。
- ・数学、理科共に、授業で学習したことが社会に出た時に役立つと考えている生徒の割合が県平均や全国平均よりも低くなっている。
- ・生徒の間での話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると感じた生徒の割合は、県平均や全国平均よりも高い。

地域や社会への関わりについて

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある生徒の割合は、県平均や全国平均よりも高くなっているが、地域社会などでボランティア活動に参加したことのある生徒の割合は、県平均や全国平均よりも低くなっている。

4 学習意欲を高めるための魅力ある授業づくりと、家庭での学習環境づくり

今年度の調査結果から、本校の3年生は、生活習慣が安定していて、家の人と学校での出来事について話す生徒の割合が高く、自分にはよいところがあると感じ、将来の夢や目標を持っている生徒の割合が高いことがわかりました。

自分で計画を立てて勉強をしていると感じている生徒や、学校の授業の予習・復習をしていると感じている生徒の割合は高いのですが、一方で、平日の家庭での1日あたりの勉強時間は、1時間以上2時間未満の生徒が多いことがわかりました。

本校では、本年度の校内研究で新たに「学びの自立を目指して～生徒自身が見通しと振り返りを意識して取り組む授業の在り方～」を研究主題に掲げて、日々の授業をよりよいものにするための研究に取り組んでいます。

今回の調査結果を全教職員で共有し、日々の授業の更なる改善に結びつけていこうと考えています。また、家庭での学習時間の定着、各教科の宿題や課題提示の方法、課題への取り組みの工夫や改善など、自主的に学習に向かう環境づくりについては、ご家庭と連携したこれまでの取組を継続していきたいと考えています。

今後も一層のご理解とご協力をお願いいたします。